

第2回松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティ
おもてなシティ推進会議 議事録

1. 日 時 平成27年8月24日(月) 13時30分～
2. 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
3. 出席者 別紙のとおり(委員11名のうち8名出席)
4. 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)
5. 会議経過 (1)開会・総合政策部長挨拶 13:30
(2)長江会長挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者なしとの報告)
資料確認(配布漏れなし)
議事録署名確認(名簿順につき橋口委員に依頼→了承)
(3)議第1 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック
やさシティおもてなシティ推進(第1次)行動計画
について
(4)説明 「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」
について 文化庁 富田氏
(5)議題2 今後の予定について
(6)閉会 16:00

6. 議事概要

○長江会長

本日は13時30分から2時間程度の短縮された会議の中で市が策定した計画についての説明、文化プログラムについて文化庁からの説明もあるため、速やかに始めたいと思います。

議案第1号「松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティおもてなシティ推進(第1次)行動計画」について、事務局より説明を求めます。

○事務局

松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティおもてなシティ

推進（第1次）行動計画（案）について説明。

○事務局

日本サッカー協会「夢の教室」DVD上映

○長江会長

推進計画そのものは2020年に向かって進んでいくわけでありますが、皆様方からは、本日、今年の予算組み300万円に関しまして、事務局から説明を頂きましたので、議論のテーマとして「夢の教室」の実施あるいは拡大、教育読本の制作テーマや方法、市民の意識啓発、選手育成支援方法の選定、松戸文化の充実や発信方法、文化プログラム、各種取り組みについての皆さんのアイデアなどをはじめご意見を頂きたいと思っておりますのでご自由に発言をお願いします。

夢の教室の実施は本年度のオリンピック教育事業です。市内には120クラスありますが、そのうち8クラスを今年度行うものになります。

○西機委員

まず、事前に目を通した行動計画（案）で気になったところを申し上げます。

「夢の教室」について、そもそもの松戸市の教育計画やマスタープランの中で、松戸市のやさシティおもてなシティ推進計画がどのような役割・機能を果たすのか、この行動計画（案）からは、それぞれの事業のことは書かれているが若干見えてこないところがあります。

例えば回数なり、誰がやるのか、お金の部分など、ここで行われる事業だけでは効果が見えないと思います。

ただ、こういった取り組みが他の取り組みに非常に大きな効果を上げることもあると思います。

私はスポーツのレガシーを専門にしているところですが、レバレッジという言葉もあります。少ない投資で大きな成果を上げるというところをみると全体の計画みたいなものが見えないと、行動計画（案）についてのアイデアを発言することは少し難しいと思っています。

各教育なり、スポーツ基本計画もあると思います。このやさシティおもてなシティの計画はブランドや観光などもあり非常に広く広がっていますが、一方で他の計画との関わり、位置づけは必要かと思っています。

また、2020年までの計画になっていますので、オリンピックが終わって以降の行動計画が示されていないので、その先の計画について、レベルは違えど、そこまで細かい内容でないにしろ、もう少し示していく必要があるのではないかと思います。

○長江会長

基本的な部分で極めて重要な部分かと思います。市の全体のマスタープラン、スポーツ基本計画等との位置づけに関して皆さんいかがでしょうか。

○西機委員

市のマスタープランや各種計画に対して、我々というか、このやさシティおもてなシティ推進計画がどういう役割なのかを示していただけると、それぞれの取り組みが整理しやすくなるとともに意味のあるものになると思います。

○太下委員

このやさシティおもてなシティ推進計画はかなり広範な政策分野の内容が含まれていると思っています。そういった意味でいうと非常に総合的な政策として是非これを展開して頂ければと思っていますし、駅周辺のまちづくり計画とも連動して行って松戸のイメージアップを図ることも大事だと思います。

戦略には事前キャンプの誘致が掲げられていると思いますが、キャンプの誘致それ自体は一過性で終わってしまうと思っていますが、キャンプ誘致を行うのであれば是非、戦略的な取り組みを考えるといいと思います。

どういうことかと言いますと、ロンドンオリンピックでは、世界の 204 の国と地域が参加していますが、その 3 分の 1 近くは一度もメダルを取ったことがないと言われています。

例えば、その中でもミャンマーやカンボジアなど非常に日本と経済的にも文化的にも交流が重要視されている国があるかと思っていますので、そういう国とオリンピックで松戸市がどう向き合うのか、そういう国のキャンプを誘致し、市を挙げて選手を迎え、応援することになったとすれば、仮にメダルが取ればそれは素晴らしいことですし、取れなかったとしても、オリンピックが終わった後も交流が続きそれがレガシーと言えるようになるのではないかと思います。

キャンプの誘致をしてそのときだけ記事になってそれで終わりということではなくて、オリンピックが終わった後のレガシーがどういう効果をもたらすかということも睨んだ戦略的なキャンプの誘致になればと思います。

また、3 点目として、教育読本は是非取り組んでいただければと思っています。教育読本は小中学生レベルで考えているかと思いますが、松戸市は大学が集積している都市でもあり、やさシティおもてなシティ推進計画の担い手となるボランティアのことも考えると、市内にある大学の位置づけが重要かと思っています。

オリンピック組織委員会も大学との連携を重要視していますし、早い段階か

ら大学とどういう連携ができるか考えていく必要があると思います。今いる大学生は卒業してしまうでしょうけれども、大学へのPRも積極的に考えていく必要があるかと思っています。

○飯沼委員

この議論のテーマの中で最も大事なものは、幼稚園から大学までの教育の中でオリンピックをどう捉えるか、オリンピックをどういう風にして我々が世界平和に繋げるような理解ができるのか、そのようなことを一貫して幼稚園から大学までのプログラムとして具体的に準備できたらなと思っています。

特に幼稚園で言えば、万国旗を覚えることは国を覚えること、文化を覚えることは大事なことだと思います。小さな子どもは初めてのことに興味を示してくれると思います。是非、教育関係の夢の教室をすすめ、夢を膨らませていくとともに、異文化交流もしてお互いの理解を深めるということも進めてほしいと思います。

市民意識の啓発は、毎日がオリンピックに近づいているため、様々な国際交流の場面が増えています。オリンピックが国際交流の大変良い機会になるかと思っています。すぐにでも啓発を始めていく必要があるかと思っています。

選手の育成については、先般、松戸市から初めて甲子園に出られましたが、松戸市からオリンピックに出られる方を皆で応援できるような体制をできるだけ早く作っていただきたいと思います。夢を与えながら応援することができると思います。松戸市が何の種目に力を入れていくのかも決めていかなければならないかと思っています。

松戸の文化の充実発信は非常に大切だと思っています。具体的に松戸のPRすべきものは何なのか、これをもう少し議論を深めながら、子供達にもわかるように皆で自分たちの住んでいる町の文化に誇りをもちたいと思います。

色々なプログラムがありますが、オリンピックの時までに松戸市が何をするのかという目標をしっかりと定めて皆で確認していきたいと思います。そしてここで議論していることがどのような形で市民に広報できるのか、そして市民も一緒になって議論ができるようになればと思います。

○尾崎委員

夢の教室はコンテンツとしては非常に面白いアイデアかと思いますが、他にそういった事例もあるとも思っていますのでいくつか事例を集めて、これに拘らず、継続的に進めていく必要があると思います。

当然ながら夢を追いかけることに加えて、スポーツであればフェアプレーの精神であったり、ラグビーで言えば「one for all」「all for one」というようなス

スポーツの中で育まれる精神みたいなものも展開していければとも思います。

松戸市でそもそもある取り組みの中に、このオリンピックのエッセンスを取り入れることができるのか、数が増えども質が上がらないということもあると思います。新たにということではなく、今あるものをブラッシュアップしていければいいと思います。既に色々なことに取り組まれていると思いますので、方針や具体的な中身のベストマッチングを探していくことができればと思います。

○杉浦委員

松戸市がこの推進会議を進めていくためには「あれもこれも」になっているので「あれかこれか」に絞っていかないとならないと思っています。

対象は教育なのか、文化なのか、子どもなのか高齢者なのか、的を絞っていかないと時間が経過してしまいます。

今後は的を絞っていく議論が必要であり、そういった取り組みの中で何か一つ出来上がってくるのではないかと考えています。

○岡本委員

夢の教室も啓発事業もやることについては否定するものではないと思っています。将来に向かってオリンピックを機会に松戸市がレベルアップしていく必要もあると思っています。

こうした推進会議の開催にあたって議会などとも意見交換をした経緯がありますが、例えば事前キャンプなどの誘致にあたり、スポーツ施設が不足していたり、宿泊施設も足りないので、こういった機会に整備できないかという議論もありました。

また、候補選手への支援を手厚く行って強化選手を掘り出し、手当てをしつかりしていこうという思いが強くなりました。

この委員会に入りまして、文化プログラムなどについて伺いまして、夢の教室についても、今度のオリンピックに向かってというよりは、将来に向かっての教育になっているように感じています。

そういう面で、もう少し、差しあたって絞れるようなことができればいいとも考えています。

○橋口委員

教育事業の中では夢先生に限らず、様々、各競技団体が行っているものがあると思います。予算との兼ね合いもあると思いますが、長く続けていかないと意味がないと思っています。

それと関連して、パラリンピックのほうではタレント発掘事業も各競技団体が取り組んでいると思いますので、例えば会場を松戸市が提供するというのも効果があるかも知れません。

これからの子供達だけでなく、パラリンピックについては中度の障害もあるので大人も多く該当してくため、そういう競技者を発掘していくという意味でも松戸市が会場を提供することに一つ意味があると思います。

啓発事業の中では、松戸市の市民向けということではありますが、夢先生やそれぞれの連携の中でも、松戸に関連したアスリートの方々、そういった方々が地元に戻って、それは企業のアスリートでもいいと思うんですね、そういったところがこちらで同じようなコンテンツを提供することができるのかな、ということについても今お話を聞く中で私自身思っているところであります。

選手支援のところでは、オリンピックのマイナー競技については選手育成のほうでお金がないと、強化費の面では非常に厳しい面があると思います。昨今の新国立競技場の件もそうですが、JSCの強化費が削減されるという情報もあり、各競技団体は強化費の工面に苦労していると思います。

ただ、限られた事業の中でのお金ですので、単純に松戸市に関連した30名弱の選手に強化費を交付するだけで良いのか、これは皆さんの意見も聞きながら議論できればと思います。パラリンピックの選手においては、学校に在籍している場合にはトレーニングの環境が整っていますが、卒業した後、働きながらトレーニングする環境がなかったり、雇用の問題で働きながら競技を続けることができないこともあります。

例えば、松戸市や商工会議所関連において、障害者の選手を呼んだり、雇用するなどして生活環境を整えていくという考え方もあろうかと思えます。

○長江会長

本日欠席の池邊副会長よりご意見を預かっておりますのでご説明いたします。

「行動計画案については、前回は踏まえ具体的なスケジュール入れて大変良くできています。しかしながら総花的で少し優先的課題、実現可能なものについてリアリティのある記述があるほうが良いと思っています。分かりやすく説明はされておりますが、全体的にもう少しポイントを絞ったほうが良いと思います。」

「夢の教室については大変良い取り組みであると考えていますし、千葉県内で取り組み事例があるとは言え、まだ少ないと思っていますので、単年度で対象になる学校はこれから実施要望があがると思われます。少ない学校数であっても毎年実施し、オリンピックまでには実施した学校や、受講した生徒たちを中心に、受身から自立的な行動へ持っていければよいと思います。ただ、授業

を受けただけで終わらないようにして頂ければと思います。」

「教育読本につきましては、オリンピックキッズブックなど子供達に親しみがある名前にし、インターフェイスも考えていく必要があると思います。せっかく夢の教室も実施するわけですから、学校やその他文化活動など相乗的に仕掛け、子ども宣伝とか子ども会議とかそういうプランに繋げ、波及効果を目に見えるようにして頂きたいと思います。」

「一番重要なのは市民啓発です。既にイベント開催が予定されており当面は同様の形式になるかと思いますが、少し地域に根ざし、草の根的な掘り起しも必要な気がします。市内をいくつかの区域に分けて地域でしやすいアクションプランに向けた行動計画を一緒に練っていくような形式が必要です。地域別になれば、それぞれ地域が自分たち独自の活動を行うモチベーションにつながります。」

「選手育成については、現段階で支援方法に問題がある訳ではありませんが、物的な支援で良いのかと思います。今後はサポーター組織のようなものを形成して、選手のいる地域や選手の種目によりサポーター活動の初期活動の支援になるように、松戸からの選手が出ることは地域活性化につながると思います。」

「松戸文化の充実発信方法については、既に前回に松戸ブランドとして、徳川なども入り新しい展開を見せていますが、この際、もともとあまり浸透していない松戸のもつ深い文化と、新しい文化の息吹を両側面から情報発信していくことが重要で、この7月の太下さんのご講演、本日の文化庁のご講演を頂くようですが、やはりこの機会に松戸本来のポテンシャルを広く日本全国に発信していくようなものにしたいと思っています。」

「28年からの文化プログラムについては、過去の海外での文化プログラムで言われる、アスリートのリーダーシップなど新しいアートの話になっています。前回ご提示いただいたように、松戸市には文化がありながら外部にはあまり知られていないものがあるので、投資効率的にも一過性のものではなく、もともとある潜在ポテンシャルに磨きをかけオリンピック後も松戸のイメージを担ってもらえるような文化活動をきちんと育てていくスタンスが必要だと思います。松戸駅の東西口のデッキ周りの看板を緑化看板に変えとか、イメージアップにもしっかりと取り組んでほしいと思います。大学で行われる活動と研究室で行われるような活動については、今後ショートトリップとか、江戸川・坂川・徳川松戸文化情報発信、学生目線の海外発信、サイクルツーリズム、公共サインの改善など、エントリーさせていく中で、色々な学生の取り組みを活性化していったらどうでしょうか。」このような意見を頂いております。二人の欠席者からのご意見は後日いただけると思います。

皆様方からのお話は全体的なところから出ていますのは視点を絞ってという

ところや、マスタープランなど、松戸市が既に取り組んでいる事業との関連・整合性はちゃんとした位置づけをしていく形でご説明等を今後していく形で、この行動計画の中には責任の所在がないと、実施できないので、つまりこれに関しては教育委員会のここと連携して下さい、これについてはスポーツ関連の部署との関連でここまでのところをいつまでお願いします。観光については観光課との連携をお願いしますという形にしていかなないと、この委員会は計画そのものをいくら作っても、絵に描いた餅になってしまうので、その点に関してのことも含めて議論をしていく形の方向性でよろしいでしょうか。

それでは、文化プログラムについての文化庁のほうから、私たち委員が学ぼうということで、文化庁から富田様がおいでになっておりまして、約 20～30 分くらいお時間を頂いてお話を伺うということになります。

文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想が 7 月 17 日現在で発表になりました。私たちの推進委員会のほうでも知っておく必要があると思ひまして、準備をしていただきましたのでよろしくをお願いします。

○文化庁富田氏

「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」について説明。

○太下委員

文化プログラムについて補足説明をさせて頂きたいと思ひます。資料に記載のあります「2021 年以降も文化庁が推進するプロジェクトについて、都道府県市町村等が文化庁作成のガイドラインに基づき、文化プロジェクト（仮称）を認定することを検討」と記載されていますように、文化庁が認定するのではなく、都道府県市町村が認定するというのは非常に大きな政策の変更だと思ひています。

文化庁はあくまでガイドラインを作成し、松戸市が認定するということになると思ひます。ロンドンでは約 18 万件できたという実績がありますが、なぜロンドンで上手くいったのかというと、イギリスにはアーツカウンシルという文化芸術に関する独立行政法人のようなものがあり、2012 年当時で 560 名の専門家を抱える組織がありました。一方で日本にはこのような組織はありません。文化庁が一極集中的にこれをやろうとしてもマンパワーが追いつかないため、都道府県市町村がこれを担っていくことが想定されています。

ただ、実際に文化プログラムを管理していくためには I O C は極めてオリンピックのロゴマークの使用など厳しくコントロールしていくことになり、専門家が必要ということになり、資料に記載ありますように「将来の地域版アーツカウンシルによる・・・」という表現になっているということです。

先ほどの富田様のご説明にありましたように、文化庁と観光庁との連携については、包括連携協定が結ばれたように、狭い意味で文化政策をやっていくだけでなく、文化の取り組みが観光につながることもなりますし、瀬戸内の国際芸術祭については100日の会期で100万人訪れているわけで、観光にとって文化は極めて大きな要素になっています。そうすると、観光庁が掲げるDMO（Destination Management Organization いわゆる観光振興組織）のような組織が地域版アーツカウンシェルと一体化していくようなことも地域では考えていかなければいけないかもしれませんし、この説明には地域にとって重要な投げかけがされていますので、ぜひ、松戸市も真摯に受け止めて、そこへ向けての組織体制づくりや専門家の確保と育成を行っていただければと思います。

○長江会長

ここで太下委員が中座されます、ありがとうございました。

○長江会長

会議前半には推進計画全般に関するご意見を頂きました。市の各種計画との連動、これに関しては、なかなかこの委員会そのものの予算組みとしてはそんなに大きなものをいただけるわけではありませんし、連動を含めた形で全体の松戸の計画と整合性がないと実施も難しいということもありますので、これから後半のざっくばらんな意見を伺いたいと思います。

そのような中で私は委員長として伺っていましたら、最終目標というか、松戸のオリンピック・パラリンピックを通して、松戸の未来のまちづくりがよりイメージアップできるようなまちになるのが最終目標なのかなと思いながら伺っていました。

そして、総花的に事業があってそれが時系列で語られているのですが、皆様方のご意見を伺っていますと、3つくらいの柱になっていくのかなと思っています。

一つは、教育で、飯沼先生のほうから伺った異文化理解とか、平和に対する思いというところで、オリンピックを通じた青少年の育成という視点かと思えます。私は高齢者の担当なものですから、壮年から高齢者にはボランティアや障害者に関する理解を深める生涯教育という柱がよいかと思えます。

二つ目は、観光と文化という柱です。現在松戸市ではアトラインなどやっていますが、それと関連して戸定邸と江戸川など頑張っているんですけどそれと関連して、オリンピックに向けてもっと深めることによって産業も育成されるという柱です。

三つ目は、一番重要なところは、もちろんスポーツなので、スポーツに関し

でのオリンピック・パラリンピックで理解を深めるとともに、健康教育とかそういうようなところにつなげていく必要があると思います。橋口委員さんからとても素晴らしいお話をうかがいましたが、障害者の方は、学校教育の段階では競技施設が充実しているということですが、卒業されたり、社会人になった後は、スポーツを続けていくための施設に事欠いているというのが現状であるということでした。

そういうことに関してパラリンピックの方にも使っていただけるような施設をうまく、両立できるような施設を、という切り口だったかと思います。

切り口はやはり松戸らしさというものをこの計画の中で出さなかったら未来の松戸もないでしょうという感じで伺っておりました。

教育、文化、スポーツ、健康というような柱をしっかり立てて、それらに関して、市の政策と結び付ける、先ほど西機委員から素晴らしいご意見がありました、「小さな費用しかないかもしれないけれども、波及効果をより良くしていかなかったら将来に対する目標設定もできない」というものでした。これをしっかり煮詰めていくことが重要なのかなと思いました。

これは私の意見でございますので皆様からご発言を頂きたいと思います。

○橋口委員

柱的なものと松戸市の計画について、できることとできないことがあるかと思いますが、ハード面については限られた予算と限られたビジョンが出てきてしまうかと思いますが、選手の育成というところで環境面と雇用の面の認知を広めてもいいのかなと思います。

また、他の都道府県や市町村に松戸市の取り組みをアピールする、そして対外的なアピールが松戸市民にとってプラスになれば、それにつなげていければいいかと思います。

年齢がある程度いっていても、選手を続けられるのがパラリンピックの特徴かと思います。本来ではロンドンでやめようかと思ったけど、東京が決まってリオがある。また新たに競技種目に関しても、標準の記録を突破できない種目も東京に向けてという形で育成が進んでいます。

身体の障害もありますし、知的障害者の選手がロンドン大会から復活しましたが、知的障害者の選手のサポートが必要で、知的障害者の種目は多いのですが記録を突破できないところもあり、そういった選手の東京大会までのサポートをどうするか、そこをベースで雇用と生活面のある程度の生活環境を確立した中での東京大会以降につながるということがあります。

市の福祉課との連携が必要になるかと思います。高校生・高等学園であれば学校の先生が就職斡旋などに動いてくれるかと思いますが、他府県の選手がこ

ちらに来るとなると自分で動くことになるので市役所間でサポート体制がある
と、他の市町村・都道府県から来る選手が非常に動きやすいと伺っています。

○岡本委員

文化プログラムについては色々な形で実行していかなければならないという
ことを知りました。

本市のスポーツ文化を将来に向かって継続的にレベルアップしていくことを
目標として、それに向かってやることを決めていく。そして 2020 年東京大会に
ついての選手の強化や他にできることをあぶりだして行って、それに向かって
やるべきことを示唆できるように作り上げて行きたいと思います。

○杉浦委員

松戸市が何ができるのかという中で、お金もそれほどないわけですから、文
化庁というつながりを持ったのであれば、文化庁を頼りに松戸市で何ができる
のかを議論しているうちに時間ばかりかかってしまうかと思っています。文化庁に
対して深く深く。

例えば、経済振興という視点では、空き店舗がたくさんありまして、その中
には寺子屋のようなものが一杯あるわけです。文化芸術、そこで音楽を教える、
絵を教える。寺子屋の空き店舗に家賃を出してもらえれば、先生はたくさんい
らっしゃると思います。空き店舗対策の呼び水として、家賃の補助があれば文
化芸術の礎となり、何年後かに花が咲くということになるかと思っています。未来
に向かってそういう取り組みをするのは大切でいいことだと思います。

あれもこれもやっていけば、なかなか進まないと思いますし、そういう文化
観光を目指すのであればそういう切り口で推進できるのではないかなと思って
います。文化芸術立国ということであれば、具体的には家賃の補助さえして
もらえればまちなかにいっぱい教室があって教えてくれる先生もいて、学びたい
人が学びやすくなるかと思っています。

○尾崎委員

選択と集中という意見が多々あるかと思っています。スポーツは大変広い言葉な
ので、仮に言えば、そこに障害者という例えばキーワードを決めて、施設整備
はバリアフリーあるいは障害者スポーツの人達も共有できるような体育館設定
にしようとか。

そういうようにスポーツを一概に広く捉えるのではなく、少し、キーワード
を決めてそこに特化していくことも大事ではないかと思っています。

おそらくこういうタイミングでしかハード面での整備はなかなか進まないか

と思います。ハード面をすすめていくときに、その後ハード面を更新し続けるために必要なソフト、コンテンツ、指導者、選手をどのようにミックスして2020年までに仮にそういう障害者、バリアフリーというものを整備して未来永劫、更新し続けられるようなソフトづくりを一方で組み合わせていく必要があるかと思います。

いずれにしても、イベントまでにはある程度整備は進みますが、その後の更新が続かないという側面がありますので、そうなっていくとソフトコンテンツであれば毎年大会がその時期にあり、そこにはおもてなしをする市民がたくさんいる、そういったほかの市町村がうらやましいようなスポーツの環境整備が仕掛けられるかと思います。

選択と集中、総花的にするとニーズと不一致なところに投資してしまうかもしれないと思いますが、そこを一つに絞りこむことができればなと思っています。

高齢者スポーツはマスターズという切り口になると思いますが、選手ニーズが出てくると思います。

○飯沼委員

たまたまオリンピックが東京に来ることになったので、皆さん一緒に国際化の話ができることに大変嬉しく思っています。国際的な話は日常生活に直結しないためなかなか広まらないと思っています。25年財団法人でやっておりましても、PRをしているつもりですが、なかなか国際化の浸透が広がらないのが現状かと思っています。

私は、ロンドンオリンピックは、スポーツを中心に歴史、伝統、文化を全部海外に発信できる、こういう場をつくったことは素晴らしいと思います。

もちろん、オリンピック憲章にはスポーツだけでなく、文化紹介を重要視していることはわかっているけどできなかった。

日本でやることになれば、もう少し身近に国際化の話もできるのかなと思います。

この、アクションプラン行動計画はひとつひとつをみれば完璧だと思います。パーフェクトです。ただ、それをどういう風にやっていくかが重要かと思いません。

例えば、通訳の養成、ホストファミリーの拡大、外国人に案内できるサイン、松戸にいる外国人に実力を発揮してもらいたいと思います。今年は急に増えたベトナム人たちです。今までは、中国が一番多くて、次は韓国でしたがベトナムになりました。

それぞれの国の出身地の方たちがグループを作っていますので、そのグループを大事にしながらその人たちを中心にベトナム語で案内できるようなものに

発展させていければと思っています。

そういうことを今すぐやれることからやっていかなければならないかなと思っています。

私は、本当にこのスポーツという非常に分かりやすい大会を通して、文化と教育、乳幼児から高齢者まで含めて生まれてよかった、世界の人達と会えてよかったと違和感のないような日常できる基礎基本を教育でやっていくことがすごく大事で、オリンピックは最大の機会です。

この機会に是非、教育委員会をはじめ、市内には 4 つの大学がありますし、今回を契機に 4 つの大学と連携を取り合って、スポーツを通じて、文化歴史を通じてやらないといけないし、まとめないといけないと思います。

0 歳児のこどもから、実際は社会教育と生涯学習が一番大事で、一生涯を通じて松戸にいてよかったなと思えるよう、もっと外国から来ている人達をもっと PR もして、教えてお手伝いもしてもらいたいと思っていますがなかなか上手くいかないと思っています。

今、松戸国際文化大使制度を作って毎年 25 人くらいに委嘱して、自分の国の文化とか歴史とか得意な趣味等を伝える取り組みを行っています。こういう取り組みを、オリンピックを通じて、スポーツを通じてもっと広く楽しんでいただけるようになるかなと思っています。

そういう意味でも、私は小さいうちから万国旗を覚えるだけでも、一番身近なそういうところを大事にした教育が良いかと思っています。

ちょっとあせっているのは、こんなに立派なプランがあるので、どこでどういう風に早く実行し、行動していくのか、最終的にこちらの会議で決まらなと実行できないと思いますが、具体的なノウハウを考えながらプランを練っていただいていると思います。そういう意味でオリンピックの機会を利用して準備をしていければと思います。

スポーツについては、日本は海外よりもスポーツ選手への援助が少ないので、やはり松戸市民で応援する方を、そして松戸の得意なスポーツにしっかり力を入れてあげる必要があると思います。

私は、国際化をするベストチャンスなので、何年先とかでなく、今やらなければという切羽詰まった気持ちで考えています。

子どもにいっぱい夢を与えて、大人の責任というのは子どもに自分達が体験したことをしっかり伝える、フェアプレーの精神などです。

○西機委員

最初にお話したとことと若干矛盾することもあるかと思いますが、総花的マスタープランとの連動で、このやさシティおもてなシティ推進計画も幅が広い

と思います。総合計画は大きなフレームですけれども、オリンピックというフレームで考えると2020年までという時間軸があって、総合計画は期を分けてやっているが、タイムラインがなかなか合っていないと思います。

しかしながら、今回オリンピックが来るということで、時間軸は皆とあわせやすいと思います。パフォーマンスの目標値ということも、世代でいうと小学生に対してこれだけできる、大学生とかの次の世代の指導する人達を生む、さらには今まで築いてきた人達から受け継ぐというフレームを絞りやすいと思います。

分野とかやることを絞ろうという意見が出てきているところですが、基本方針ではなんだかんだ言っても、スポーツ、文化・地域ブランド、生きるちから・教育、国際交流・グローバルという4つの柱はしっかり整理したと思いますので、その中で2020年までにできること、さらには2025年なり2030年にあるべきものというものを色々な計画を横並びにチェックして、次どうしていきたいのか、さらにその先どうしたいのか、ということに対しての役割が今回の計画に意味があるのかなと思います。

総合計画は漠然としていて100年だったりとか市民全員だったり公平性が重視され、フレームが作りにくいと思います。

具体的にいえば、夢先生が例にでましたが、日本で活躍した選手がきて子供達に教える。これでは松戸には残らないと思います。子供達は世界に行こうと思う子もいるかも知れませんがわずかだと思いますし、その間にいる今世界を目指している子だったり、強化選手の指定を受けている子だったり、あるいは大学生でアスリートの人間が間に入って、一緒にその場についてそういうことの大切さを知って、例えば5年後その中から1人オリンピックに出るかも知れないし、出ないかもしれない、そういう人間が松戸に残って、次の子供達がアスリートを目指すという時に夢先生になって循環してできるような取り組み、人づくりに必要なリソースや場、ものなど、ソフトを作っていくことも必要かと思います。今回夢先生に支出して、それだけで終わりにするのではなく、その大事さを知ってもらって、寄付金だったり、クラウドファンディングだったりを活用して倍にしていく仕組みづくりであり、ガイドラインだったりマニュアルをつくり上げれば、夢先生もスポーツに限らず、文化でも同じようにフィルムコミッションだったり通訳の養成だったり他の分野でも同じようにチャレンジしていったり整理をしていくと、つながりも見えてくるのかなとも思います。

○長江会長

2020年でこちらの計画はいったん終わりますが、その後、松戸がどうあるべ

きか、ということを含めた形の継続の部分の踏まえ、それも含めて推進計画の中に位置づけるというのと、継続・持続可能な形のアクションプランのタネを蒔くところから育てて、幹のある大きな木に育てていくという、そういう形の推進行動計画でなければならないと思います。

第3回目の会議には、その点を含めて最初の種蒔きのところから、今回の計画中のモデル的な事業を選定しながら、どういう種を蒔いていくのか、先ほど飯沼委員からありました国際化もそうですし、岡本委員、尾崎委員から頂きましたスポーツ関係、橋口委員のほうからは障害のある方々への優しい社会ということ、杉浦委員からは実行可能な空き店舗対策を含めた形で観光に結びつけたり、人づくりになったり地域が活性化していくような、そういうオリンピック・パラリンピックやさシティおもてなシティ推進行動計画になったらいいかと思っています。そういうことを次回の会議にお話したいと思っています。

次回の会議では、来年度の予算組み時期のところに関わってくるので、今年度は市のほうで組んだ予算が実行されていますが、次年度は私たち委員の意見を反映した予算事業を行ってもらえるようになるのかなと思っています。

これで第2回の推進会議を締めさせて頂きたいと思います。本日はありがとうございました。